

ドイツ鉄道輸送研究センター（D Z S F）と関係強化にむけた包括協定を締結

2 0 2 5 年 8 月 8 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、7月18日に鉄道総研国立研究所においてドイツ鉄道輸送研究センター（Das Deutsche Zentrum für Schienenverkehrsforschung 以下、D Z S F）と、今後の関係強化にむけた包括協定（以下、協定）を締結しました。



協定締結後、握手を交わすD Z S FのEckhard Roll 理事長（左）と
鉄道総研の渡辺郁夫理事長（右）

1. 協定締結の目的

鉄道総研とD Z S Fが有する研究開発能力や試験設備等を活かし、鉄道の先進的・実用的な研究開発に対して有益な協力プログラムを推進し、日独両国における鉄道の発展及び学術・技術の発展に資することを目的としています。

2. 協定による今後の取り組み

- (1) 共同研究
- (2) 研究員、技術者の相互派遣
- (3) 今後の共同研究に向けた情報交換や研究成果の発表や情報交換による関係強化にむけたセミナーの実施

なお、共同研究、相互派遣については、両機関ともに注力するテーマである気候変動、自動運転、デジタル・メンテナンス、脱炭素化および鳥獣の列車衝突の分野において実施します。

また、次回セミナーは2027年D Z S Fにて実施を予定しています。

3. 協定締結に関する代表者のコメント

鉄道総研 渡辺郁夫理事長

今回DZSFと包括協定を締結できたことを大変嬉しく思います。鉄道総研では、基本計画RESEARCH 2030を策定し、「持続可能な鉄道システムの創造」を目指しています。活動の基本方針のなかでも、「激甚化する自然災害に対する強靱化」「鉄道システムの生産性向上」「鉄道の脱炭素化」については、DZSFとの共通課題としても挙げられており、今回の包括協定を機に、これらの課題の解決に向けて連携を深め、持続可能な鉄道の未来をともに切り拓いてまいりたいと考えています。

鉄道大国であるドイツの研究機関DZSFと包括協定を締結できることは、私たちにとって大きな意義を持つものです。今後は、共同研究や人事交流を通じて、互いの知見や強みを生かしながら、鉄道技術のさらなる革新と発展を目指してまいります。

DZSF Eckhard Roll（エックハート・ロール）理事長

このたび、鉄道総研との包括協定を締結できましたことを、大変光栄に思います。日本とドイツは、地理的・文化的背景こそ異なりますが、鉄道分野において共通する課題を数多く抱えており、本協定は、両国にとって意義深い連携の第一歩となることを期待しております。

鉄道総研との協力は、ドイツと日本における鉄道交通の研究開発を一層強化するものです。たとえば、人口動態の変化、老朽化するインフラ、そして気候変動への対応といった両国共通の課題に対し、科学的知見やデータ、経験を共有することは、鉄道システムの持続的な発展にとって極めて大きな価値があると確信しております。

参考

ドイツ鉄道輸送研究センター（DZSF）について

DZSF（オフィス所在地：ドイツ連邦共和国 ザクセン州ドレスデン市、ノルトライン＝ヴェストファーレン州ボン市 理事長：Eckhard Roll氏）は、ドイツ連邦鉄道庁（EBA）の研究機関を前身として、2019年に設立された国家機関です。職員約70名、15以上の幅広い分野の研究開発を行っています。ドレスデン周辺の営業線を再現したオープンデジタルテストフィールドを有し、鉄道輸送の安全性の維持・発展、特にデジタル化（サイバーセキュリティ）の進展への対応等、連邦デジタル交通省（BMDV）への科学的助言も行っています。

DZSF HP：https://www.dzsf.bund.de/DZSF/EN/TheDZSF/dzsf_node.html

（問い合わせ先）公益財団法人鉄道総合技術研究所 総務部 広報 TEL：042-573-7219